



かつて2箱で3千円という高級ティッシュペーパーが即日売売したことがあった。1箱には3枚重ね(！)150組が入っており、取り出した1組が10円もすることになるから、私の鼻水では全くバランスが取れない。ドラッグストアで5箱セットの一番安いものを買うか、ガソリンスタンドなどの景品でもらってストックしておくかというような経験と価値観しかない者からすると、まさに別世界

## 経済の原像にある生存権

いのかも知れない。書店には、従来の価値観を覆すことによって成功した経営者たちの経験談が数多く並んでいる。

ところで、その高級ティッシュは舐めると甘い味がしたそうである。舐めてみたくなるほどだったとは、それはさぞかし味覚に訴えるいい香りがしたのだろう。複数枚試してみた人はいたのだろうか。限界効用は理屈通り通減したであろうか。巷ではティッシュの食べ比べなる試みもあるらしいから、私も近くにあってティッシュを口に含んでみたが、口内の水分が一気に失われて味はよくわから

貧困問題は複雑を極める。貧困とモラルの退廃とは経済学が生まれてこのかた、つねに一对のものとして論じられてきたし、その補正策として貧困家庭の子供の公的救済や公教育の意義が議論されてもきた。

つまり、現代が直面する問題とその解決策とは、いわばその多くが経済学の成り立ちにすでに提起されてきたものなのである。翻っていえば、経世済民の学であるはずの経済学は生誕以来、それらの問題に対する決定的な処方箋を与えられないまま現在に至っているということにもなる。

# 「生きること」への想像力を

の話であった。

もつとも、そうした現象をマーケティングの教科書流に消費者の価値観の多様化とみれば、それ自体はそれほど驚くべきことではな



名古屋経済大学経済学部准教授  
大塚 雄太

なかった。

だが1箱1500円の高級ティッシュではなく、ただそこにあつたティッシュを噛みしめ、必死に飢えを凌ぐ幼い子供が、同じこの国に存在する。

高級ティッシュが即日売売したことよりも、憲法第25条に掲げられた「健康で文化的な最低限度の生活」という文言がこうした子供たちを守り切れていない現実を、同じ社会に生きる者として私たちはまず知らねばならない。この国で食べて生きていくことは、誰にでも保障された日常ではない。

このよつなことを書くこと思想史や学史を専門とする者の存在意義がさらに厳しく問われそうだが、困難の渦中にある人々が渴望するカンフル剤を用意することは、私にはできない。無責任の誇りを承知でせめて次のことを提起しておきたい。

この社会に欠如しつつあるのは、見知らぬ他者に対する想像力や、忘却の彼方に沈めてはならない出来事に対する持続的な思考力ではないだろうか。幼心に親を気遣い、自らの苦境を隠そうとする子供がいる。しかし彼らもまたこの社会の未来を担う、余人をもって代えがたき主体である。

勝ち組・負け組というような区別をしている場合ではない。経済学、いや、あらゆる社会科学の根底には、「生きること」への想像力がつねに存在したのではないのか。

おおつか ゆうた 社会思想史・経済学史。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修士、博士(経済学)。名古屋大学経済学研究科、同高等研究院を経て現職。1982年生まれ。

